4　時間がかかる精密検査

● ちんたら検査はしないのと同じ

紹介されたN大学附属病院(以下N病院とする)では，血液検査からやり直した。保健所の検査では足りないということであった。当然ながら癌marker CEAなども測った。ただ，検査の進行が非常に遅く，検査を受けると2週間後に診察(検査結果の通知)そして次の検査の予約，という具合でまたたく間に3，4の2ヶ月が過ぎた。

その間行った検査は，肝臓の諸数値の血液検査，超音波echo，肝臓のCTなどである。その結果，肝臓に複数個の怪しい影があるので，癌だとしたら原発部位がどこかにあるのではないかということで，探りを入れることになった。

この時点では癌であることの告知は受けていない。3月いっぱいは下の子供の大学入試で家中が気を取られていたため，このように遅々として進まない精密検査にも疑問を差し挟まなかった。4月になって，ようやく子育てから解放された妻は，かねて予定していた自治体によるrecycle事業の手伝いのvolunteerに週3回ほど出かけることになった。

4月に入って，N病院では原発部位としてまず大腸を疑い，大便の潜血反応を再度調べたが出血は見つからなかった。さらに，bariunmを注腸してX線撮影の検査をしたが，bariunmがうまく回らなかったようで，なにかもやもやとしているとの所見が出た。そこでやっと5月の連休前に大腸内視鏡の検査を実施した。

Volunteer活動の日がいつも運悪く検査や診察日に当るので，いろいろな方に迷惑をかける仕儀となった。私の意見で思い切って，1ヶ月で辞めることにしてもらった。そして，別の行動に出ることになったが，その詳細は次の章で述べる。連休には家族全員で三浦半島の油壷へ磯遊びに出かけた。取れたての魚料理を食べて，翌年生きていたらまた来ることを確認した。しかし，これが最後となってしまった。

● 初診をどこで受けるかということで命の行く末が決まる

5月の連休明けに私と同道で受診するようにとN病院の担当医から電話があり，そこで告知を受けた。院内の外科へ紹介状を書くから，そこの初診から受診してくれとのことであった。私が肺への転移の危険性を指摘すると，あわてて肺のX線写真を撮ったりして，second opinionが必要なら資料は貸し出せると言われた。その場で，紹介状の作成と資料の貸し出しをお願いして，3ヶ月半にわたる遠周りの精密検査に終止符を打った。

重い病の検査というと人はすぐ大病院へ行きたがるが，検査の予約がいっぱいでたいへん待たされる上，検査する医師の力量が安定していないので，もうこりごりという人が多い。実際に，この3ヶ月半のカタツムリ検査の間に癌は大きく進行していた可能性が高い。もちろん前年に兆候が現れたときに精密検査をしていれば，あるいは転移さえなかったかもしれない。

癌は大きくなるまでには5年10年の歳月がかかるが，大きくなりだすと非常に速い。一ヶ月の遅れが命取りになることもある。異常を感じたら，なるべく早く検査結果が得られるところで検査を受けるべきである。

この項終了

©2003 Dr.YIKAI